



愛知県政記者クラブ
 名古屋市政記者クラブ・豊田市政記者クラブ
 中部芸術文化記者クラブ・愛知クラブ(東京)
 都道府県記者クラブ同時

2019年5月24日(金)
 愛知県県民文化局文化部文化芸術課
 トリエンナーレ推進室
 事業第二グループ
 担当：東出、鈴木、清水、村松
 内線：724-680、724-690
 ダイヤルイン：052-971-6127

「あいちトリエンナーレ 2019」パフォーミングアーツ公演 のチケット販売を開始します

あいちトリエンナーレ実行委員会では、本年8月1日(木)から10月14日(月・祝)までの75日間、国内最大規模の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」を開催します。

パフォーミングアーツでは、3月に発表したアーティスト8組に加え、今回6組のアーティストの参加が新たに決定しました。ついては、14公演のうち10公演について、6月8日(土)のチケット一般販売に先駆けて、6月1日(土)から6月7日(金)まで、お得な料金(10%オフ)でチケットをお求めいただける先行販売を実施します。(残り4公演については、7月に発売予定)

日本では「あいちトリエンナーレ 2019」でしか観ることのできない貴重な作品ばかりです。是非、劇場へお越しください。

1 今回チケットを販売する公演

参加アーティスト名	公演名	公演日	一般販売価格	会場
たかやまあきら ボルト・ビー 高山明 (Port B) ※1	『パブリックスピーチ・プロジェクト』プロジェクトプレゼンテーション/学校説明会	8月1日(木) ～8月2日(金)	1,500円	愛知県芸術劇場 大リハーサル室
アイアイピーエム ミロ・ラウ (I I P M) カンボ +CAMPO	『5つのやさしい小品』	8月2日(金) ～8月4日(日)	【一般】 3,500円 【25歳以下】 3,000円	愛知県芸術劇場 小ホール
ネイチャー・シアター・ オブ・オクラホマ +エンクナップグループ	『幸福の追求』	8月3日(土) ～8月4日(日)	【一般】 3,500円 【25歳以下】 3,000円	名古屋市芸術 創造センター

参加アーティスト名	公演名	公演日	一般販売価格	会場
劇団うりんこ ^{みうらもと} 三浦基 +クワクボリョウタ	『幸福はだれにくる』	8月16日(金) ～8月18日(日)	【一般】 3,000円 【25歳以下】 2,000円 【18歳以下】 1,000円	愛知県芸術劇場 小ホール
		9月21日(土) ～9月22日(日)	【一般】 2,500円 【25歳以下】 1,500円 【18歳以下】 1,000円	豊田市民文化 会館大ホール
サエボーグ	『House of L』	8月31日(土) ～9月8日(日) ※9月2日(月) は休館	【一般】 1,500円 【25歳以下】 1,000円 【18歳以下】 500円 未就学児無料	愛知県芸術劇場 大リハーサル室
モニラ・アルカディリ	『髭の幻』	9月5日(木) ～9月8日(日)	【一般】 3,000円 【25歳以下】 2,500円	愛知県芸術劇場 小ホール
いちはらさとこ ^{キュー} 市原佐都子(Q)	『バックスの信女 - ホルスタインの雌』	10月11日(金) ～10月14日 (月・祝)	【一般】 3,000円 【25歳以下】 2,500円	愛知県芸術劇場 小ホール
【追加】 劇団アルテミス +ヘット・ザウデライ ク・トネール	『ものがたりのものが たり』	10月12日(土) ～10月13日(日)	【一般】 3,500円 【25歳以下】 3,000円 【18歳以下】 1,500円	名古屋市芸術 創造センター
エク ス テ ン シ ョ ン ※ 2	【追加】 ドラ・ガルシア	『ロミオ』	8月3日(土) ～8月4日(日)	愛知県芸術劇場 大リハーサル室
	【追加】 たなかこうき 田中功起	『新作・タイトル未定』	9月7日(土)	愛知県美術館 10階
		9月21日(土)	1,300円	豊田市美術館 講堂

公演スケジュール等の詳細情報は、あいちトリエンナーレ公式WEBサイト
(<http://aichitriennale.jp>) を御覧ください。また、追加・変更が生じた場合も、あいち
トリエンナーレ公式WEBサイトでお知らせします。

※1 高山明 (Port B) 『パブリックスピーチ・プロジェクト』については、有料公演のほか、下記のとおり展示等を行います。(いずれも観覧無料)

・映像展示：8月1日(木)から10月14日(月・祝)まで

愛知芸術文化センター8階回遊歩廊

・パブリックスピーチ：10月12日(土)から10月14日(月・祝)まで

名古屋市内(詳細は決定次第発表)

※2 「エクステンション」とは、「あいちトリエンナーレ2019」国際現代美術展の参加アーティスト(発表済)が、展示空間から活動の場を「拡張(エクステンション)」し、作品をめぐるレクチャー形式のパフォーマンスや、作品を集団で鑑賞・議論する場(アッセンブリー)をつくる企画

2 先行販売

一般販売価格より各公演10%お安くお買い求めいただけます。

(1) 販売期間

6月1日(土)午前0時から6月7日(金)午後5時まで

(2) 取扱い先(下記のWEBサイトのみ)

アイ・チケット (<https://clanago.com/i-ticket>)

(3) 問合せ先

クラシック名古屋 電話：052-678-5310

(午前10時から午後5時まで/日曜・祝日休み)

3 一般販売

6月8日(土)午前10時から下記の窓口でチケットを取り扱います。取扱い窓口やセット券等の詳細は、あいちトリエンナーレ公式WEBサイトを御覧ください。

- ・アイ・チケット
- ・愛知芸術文化センタープレイガイド
- ・チケットぴあ
- ・Peatix(英語対応)
- ・名古屋市芸術創造センター ※1
- ・豊田市民文化会館 ※2

※1 ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+エンクナップグループ『幸福の追求』、劇団アルテミス+ヘット・ザウデライク・トネール『ものがたりのものがたり』のみ取扱い。

※2 劇団うりんこ+三浦基+クワクボリョウタ『幸福はだれにくる』(豊田公演)のみ取扱い。

4 7月チケット発売予定の公演

参加アーティスト名	公演名	公演日	会場
こいずみめいろ 小泉 明郎	『縛られたプロメテウス』(仮)	10月10日(木) ～10月14日 (月・祝)	愛知県芸術劇場 大リハーサル室
エク ス テ ン シ ョ ン	【追加】 キュンチョメ	『新作・タイトル未定』	未定
	【追加】 ふじいひかる 藤井光	『無情』	未定
	【追加】 ドミニク・チェン ディヴィデュアル インク (dividual inc.)	『新作・タイトル未定』	10月12日(土) ～10月13日(日)

料金、公演スケジュール等の詳細は、決定次第、あいちトリエンナーレ公式WEBサイト等でお知らせします。

5 追加アーティスト

- ・劇団アルテミス+ヘット・ザウデライク・トネール (詳細別紙)
- ・ドラ・ガルシア
- ・キュンチョメ
- ・田中功起
- ・藤井光
- ・ドミニク・チェン (dividual inc.)

「エクステンション」で参加
(国際現代美術展の参加アーティストとして発表済)

6 問合せ先

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 事業第二グループ

(愛知県県民文化局文化部文化芸術課トリエンナーレ推進室内)

担 当：東出、鈴木、清水、村松

住 所：〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目 13-2 愛知芸術文化センター 6階

電 話：052-971-6127 FAX：052-971-6115 URL：<http://aichitriennale.jp>

E-Mail：triennale@pref.aichi.lg.jp

「あいちトリエンナーレ2019」概要

テーマ：情の時代 Taming Y/Our Passion

会 期：2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝) [75日間]

芸術監督：津田大介 ジャーナリスト/メディア・アクティビスト

会 場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺)、
豊田市(豊田市美術館及び豊田市駅周辺)

内 容：あいちトリエンナーレは、2010年から3年ごとに開催する国内最大規模の国際芸術祭。4回目となる今回は、国内外から80組以上のアーティストを迎え、国際現代美術展のほか、映像プログラム、パフォーマンスアーツ、音楽プログラムなど様々な表現を横断する、最先端の芸術作品を紹介。

【別紙】

劇団アルテミス+ヘット・ザウデライク・トネール 『ものがたりのものがたり』

オランダ南部を拠点に、結成以来30年にわたり国内外で広く活動を続ける青少年劇団。「子供向け」ではなく、「子供の目線から世界を捉える」姿勢で創作される作品群は、大人にとっても痛快かつシュールな刺激に満ち溢れ、あらゆる世代が集う観客席はいつも笑いに包まれています。

今回、満を持してアジア初上陸するのは、ヴェネチア・ビエンナーレ2019演劇部門で銀獅子賞を受賞したばかりの最新作です。芸術監督のイエツェ・バーテラーンが繰り出す、不条理で不謹慎、ラジカルかつ遊戯的な演出は、演劇のステレオタイプはもちろん、規範的な鑑賞態度をも軽やかに裏切り、あらゆる世代の観客の想像力を奔放に解き放っていきます。

同じくオランダ南部を拠点にするカンパニー、ヘット・ザウデライク・トネールとともに作り上げた本作は、目の前で展開される舞台に爆笑しながら、いつの間にか現代社会をちょっと斜めに捉える、そんな新感覚の演劇をぜひ体験してください。



Photo: Kurt Van der Elst